

カルテ

KARTE



大腸がんは日本人で男女ともに2番目に罹患者数が多いがんとされ、2024年の部位別死亡者数では女性で最多だった。食生活の欧米化などで「誰でもなりうるがん」だが、初期なら完治も可能だ。日常生活での注意点、早期発見のポイントを専門医に聞いた。

大腸がん

症状がないから大丈夫。その思い込みが、実は最も危険な落とし穴かもしれない。

大腸がんの最大の特徴は、初期段階ではほぼ自覚症状がないことです。血便や便が細くなる、排便習慣が変わるといった「目に見える変化」が

いから「いつものこと」という油断が、発見を遅らせます。がんは本人だけでなく、家族にとつても一大事。早期なら完治の可能性が非常に高いがんだからこそ、早めに向き合う勇気が大切です。

大腸がんは日本人のがん罹患数でトップクラスで、50代リスクかもしれない。最も確実な診断法は大腸カメラ（大腸内視鏡検査）です。苦しそうと思われがちですが、鎮静剤を適切に使えば、多くの方が眠っている間に検査を終えられます。検査中にポリープが見つかった場合、大きさや状態によって

くーなどがあれば、どうかちゅうちよせず消化器内科を受診してください。その一歩が、あなたと大切な家族を守ることにつながります。

(兵庫医師会、水田寛郎
宝塚市、宝塚みずた内科・消化器クリニック院長)
◇第1、3、4日曜に掲載
します。

目立つ症状なくても受診を

現れる頃には、がんは既にある程度進行している例が少なくありません。

特に注意が必要なのが、血便を「どうせ痔だろう」と自己判断してしまうことです。専門医でも出血の見た目だけで痔とがんを正確に判別することは不可能です。「痛くない

以降でリスクが急増します。多くは腺腫（ポリープ）が数年〜十数年かけてがん化することで発生します。食生活や運動不足、家族歴などの危険因子がありますが、一つも当てはまらなくても発症しうる

がんです。「自分には関係ない」という過信こそが最大の

はその場での切除も可能です。検査と予防（治療）を一度に済ませ、将来のがんの芽を摘み取ることが可能です。

進行してからは、身体的・精神的な負担は格段に大きくなります。便潜血検査で陽性が出た▽腹部の違和感が続